

平成29年度第3回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成30年3月17日（土曜日）
午後2時～午後4時

2 場所 ひきふね図書館 会議室

3 出席者

会 長	上田 修一	(立教大学特任教授)
副 会 長	日向 良和	(都留文科大学准教授)
委 員	西村 均	(墨田区立竪川中学校長)
委 員	持田 由美子	(図書館ボランティア「ブックトークの会」)
委 員	齊藤 宮子	(図書館ボランティア「点訳きつつき」)
委 員	佐藤 弘行	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
委 員	碓氷 喜信	(公募区民委員)

〈欠席者〉	安藤 芳典	(墨田区立曳舟小学校長)
	北村 志麻	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
	成田 美智子	(公募区民委員)

4 議事

- (1) 報告事項
- (2) 「墨田区立図書館についての利用者アンケート」の結果について
- (3) 不読率の改善について
- (4) その他

5 会議録

議事第1

報告事項

上田会長 第1番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 配付資料1について説明

上田会長 配付資料1に関して何か質問は。

齊藤委員 図書館ニュース3月号の印刷用紙にオレンジ色を使っているが、見づらい。

白色も反射しすぎて見づらいので、クリーム色や薄緑色がいいのではないか。

佐藤委員 本の用紙も、薄クリーム色か薄ピンク色が多く、真っ白は少ない。

高村館長 見やすい色の用紙を使うようにしていきたい。

- 西村委員 イメージしやすいように、できるだけ催し物の写真は載せてほしい。
- 上田会長 2面以降の催し物コーナーには載せにくいのではないかな。
- 高村館長 必要に応じて、内容説明の枠を大きくして、写真や挿絵を入れられるように工夫していきたい。
- 上田会長 1面には何が入るのかな。
- 熊倉次長 その月に合わせた特集項目などを掲載していく。
- 西村委員 調べる学習コンクールの結果等も、もっと発信してほしい。
- 持田委員 図書館ニュース3月号のトップページに掲載されている。
- 西村委員 小中学生が親子で図書館に足を運べるよう、もっと全面に出してPRしてもいいと思う。
- 高村館長 皆様の意見を参考に4月から紙面作りをしていきたいと思う。

議事第2

「墨田区立図書館についての利用者アンケート」の結果について

- 上田会長 第2番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。
- 熊倉次長 配付資料2について説明
- 上田会長 これについて質問は。
- 碓氷委員 指定管理者制度が導入されてから運営が全体的に良くなっていると思う。来館者数や貸出者数が増えたようだが、これについてはどのような予算対応等をするのかな。定型業務は問題ないと思うのだが、それ以外の対応、例えば緑図書館の鳩の糞が駐輪場に落ちる問題はどうなっているのだろうか。また、3階の学習室で、荷物を置いて席を取っている人がいるので、皆が使えるよう対応してほしい。自転車置き場も、土日には溢れているので、何とかしてほしい。
- 上田会長 出席している各館長に答えてもらうことは可能か。
- 高村館長 可能である。来年度の資料費の予算は、前年度比約3パーセント増なので、今後も資料を充実させていきたい。
- 藤井緑図書館長 緑図書館では、鳩がとまりにくくするように、ロープを張る等の対応をしている。席取りは、巡回スタッフが気がついたときには注意している。自転車置き場については2箇所あり、あまり溢れることはないが、混雑した際は適切に整理していきたい。
- 碓氷委員 停車の目安となる白線を引く等すると、整理しやすいと思う。
- 持田委員 自主事業で、館内用タブレットを導入しているようだが、どのようなものなのか。
- 藤井緑図書館長 館内の催し物のスケジュール案内等に使っている。
- 熊倉次長 調べものの相談があるときは、職員がタブレットを使って調べたりしている。

三浦立花図書館長 パソコン画面を見せることができないので、タブレットを使って新刊案内や、道案内の際には地図を見せたりして使用している。

持田委員 公衆無線LANを使うときは、カウンターに聞けばいいのか。

三浦立花図書館長 閲覧席に利用のためのパスワード等を表示しているので、それを見て利用してもらうこととしている。

佐藤委員 立花図書館は館内ツアーをされたようだが、これはバックヤードツアーということか。

三浦立花図書館長 そうである。ただ、立花図書館はあまり広くないので書庫以外の部分についても、例えば、普段あまり使い慣れていない人に、書架の使い方の案内等も行った。参加者はあまり多くなかったが、意外と知らないことがあったという声もあった。

佐藤委員 ひきふね図書館でも自動出納書庫を見学するバックヤードツアーをやろうという話があったが、現在はどうなのだろう。

熊倉次長 今年度は、ひきふね図書館パートナーズ事業で、それに関する企画を行った。また、障害者関係の館内ツアーや、職場体験の際にも、バックヤード見学を実施している。自動出納書庫は、ひきふね図書館の館内ツアーの目玉だと認識している。

上田会長 先ほどの資料費についてだが、資料費が毎年増額になるというのは異例だと思う。これはどのような理解があって実現していることなのか。

高村館長 墨田区は人口が増加していることなどから、資料費も増額されているものと考えている。

上田会長 墨田区は、23区での人口当たりの資料費は、どの程度なのだろうか。

白木主事 平成29年度の墨田区の人口一人当たり資料費は、約332円。これは、23区中では中位程度である。

西村委員 議会でも、「調べる学習コンクールは成果が出ているからもっと力を入れてほしい」、「ビブリオバトルをもっと宣伝してほしい」、というような声がある。また墨田区の中学校図書館の蔵書充足率が、80パーセントほどしかない。これを100パーセントにしてほしいという声もあった。このような状況なので、しばらくは予算増が続くのかなと思う。

上田会長 指定管理者制度の導入に伴い様々な事業を行ったようだが、これらは、指定管理期間を終えるとどうなるのか。

高村館長 指定管理期間は5年間である。5年を過ぎるときに次の期間の指定管理者選定手続きを行う。

上田会長 自主事業として指定管理者が行っているものは、指定期間が終われば、一応は終わるという理解でいいのだろうか。

高村館長 一般論としてはそうだが、利用者の評判が良い自主事業であれば、次回に

は、指定事業として実施していくことも考えられる。

上田会長 公衆無線LAN等はインフラとして必要だと思うが、それらは指定管理者の自主事業ではなくて、区立図書館の事業として整備する必要があるのではないかと。

高村館長 今利用している公衆無線LANの設置は、自動販売機の設置と連動しているので、指定管理者の自主事業として提供していきたい。

上田会長 配付資料2（追加資料）の3.実績等の数値は、3館の合計値で、ひきふね図書館は入っていないのか。

熊倉次長 本資料は、指定管理3館に関する資料として作成したものである。

上田会長 指定管理者制度の影響ではなくて、別の要因で実績が伸びているということはないのか。

高村館長 人口増や区立図書館全体のサービス向上による結果と考えられる。

日向副会長 貸出冊数や利用者数が増えると、スタッフの増加等で指定管理者の負担が出てくるし、自主事業をする際の経費は、指定管理者が負担する形になる。今後、指定管理料を増やす配慮をする必要があるのではないかと思うが、どう思うのか。

高村館長 指定管理料は当初から、今後の利用増を見込んだ上で算出しているので、基本的には5年間同額である。急激な経済状況等の変化の場合を除き、金額変更は行わない。

上田会長 図書館は無料原則があるので、図書館の指定管理者制度は、利用者増が収入増につながらないということは、よく指摘される問題である。

佐藤委員 アンケートについて、4館での回答者数128件という数字をどのように評価されているのか。また問4の「大人向けのイベント・講座の充実度はどうですか」に関して、イベントに参加したか否かの設問がないが、回答した人のどれくらいの人が、実際に参加したのか。

高村館長 128件という数字は予想よりも少なかった。12月1日から2週間、各館ではカウンター付近で、アンケート用紙と回収箱を設置して実施した。たくさん集まると想定していたが、思ったより少なかった。次回行うときはもっとPRしたい。また、イベントに参加したかの問いは設けていなかったなので、回答者の中での参加者数は、わからない。

持田委員 アンケートの内容は、誰が考えたのか。資料の最後に実際のアンケートの用紙が添付されているが、これでは何も聞いていないに等しい。

熊倉次長 指定管理者制度の導入に伴い、区としても指定管理者を評価していく必要があり、その一環として、アンケート調査を実施した。今回の結果や、平成29年度の実績報告書等と併せて、総合的に評価していきたいと考えている。

高村館長 なるべく回答者の負担がないように、A4用紙で両面1枚に盛り込むことにしたため、質問項目を絞り、このような設問となった。

持田委員 図書館に来ている人たちに聞いて、8割以上の人が満足しているという結

果は当然であって、むしろ来ている人の中でも1割以上の人満足していないのは問題ではないか。イベントに参加したかどうかを聞いていないのに、イベントの満足度を聞いているのもおかしい。そもそも回収数が少ない。男女別の年齢層も知りたい。男性の回答者は少ないが、その中では年配の人が多いのではないかと思う。

上田会長 それは把握しているのか。

高村館長 データとしては持っているが、今回の資料としてはまとめていない。

持田委員 図書館を運営する側としては、大切な数字だと思う。

碓氷委員 満足度を上げている要因としては、ひきふね図書館パートナーズの活動があると思う。次回は、ひきふね図書館パートナーズの役割を評価してもらいたい。

齊藤委員 障害者サービスを利用している人にアンケートを取ってほしかった。指定管理者になってから、障害者サービスの満足度がどう変わったかを、丁寧にアンケートしてほしい。

持田委員 アンケートの目的が曖昧では、アンケートをしたということにしかない。結果から、何を導き出せるかを想定して作ることが大事である。

西村委員 アンケートに答える人を増やすのには工夫が必要だ。学校公開をするときも、必ずアンケートをするが、普通にやっては集まらない。集めるためには、当日の資料と一緒にアンケート用紙も渡して、帰るときに回収要員が下駄箱の前で待機している。イベント全体ではなく、各館のそれぞれのイベントについて聞いて、それを集約した方がいい。

上田会長 昔、公共図書館で調査をしたことがあって、そのときは1日中配布して、帰る人から直接回収したことがあった。そのくらいやらないと、一定の数は集まらない。同じ人が重複して提出することもある。今回も、同じ人が回答している例もあるのではないか。母数としては、数百から千近い数が必要だ。また4館でやっているなら、別々に集計を出さなければいけない。こういうアンケートはどこでもやっているが、多分に形式に流れている側面もあり、アンケートをしたという実績作りで行われがちでもある。いろいろなサービスについての満足度は高いが、所蔵資料については、それほど満足度が高くない。自分の借りたい本が無い、という人が多いのではないか。その辺りを細かく聞いていかないとなかなか改善にはつながらない。今回初めて実施されて、いろいろ課題が見えてきたのではないか。

日向副会長 もっと数を集めないといけないし、障害者サービスのような特定の利用者にアンケートすることも必要だ。イベントも、個々のイベント実施後に聞いていかないと、イベントに参加した記憶が薄れてしまう。それぞれの館によって違いがあるので、男女別や館別のクロス集計をしないといけない。回答数の128件も、館によって多い少ないがあるだろう。また、他の項目に比べて、所蔵資料についての満足度が高くはない。普通と答えた人に、その理由を聞いてみてもよかったのではないか。

高村館長 ご指摘いただいたとおり、質問内容や調査方法については、改善の余地が大きいと思うので、次回に向けて改善していきたい。イベントについては、そのイベントの都度アンケートを回収しているが、数値化まではしていないのが現状である。

持田委員 私の勤務先の専門図書館では、利用者のメールアドレスに一斉アンケートを送っている。集計結果もネット上で見ることができる。アドレスを登録している利用者に、そうしたアンケートを実施することは可能なのか。

上田会長 今後アドレスを登録してもらうときに、「アンケートに利用することもあります」という注意書きを入れればできるのではないか。了承なしに、勝手にアンケートを送付すると迷惑に思う人もいる。持田委員の言うようなやり方ができれば、いろいろな人の意見が集まるので、検討してもらいたい。また、今回のアンケートの回答者の年代で、40歳代が多いのはどうしてなのだろうか。

熊倉次長 登録者数が最も多い年代が、40歳代ということがあるのではないかとと思われる。

議事第3

不読率の改善について

上田会長 第3番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 配付資料3について説明

持田委員 新年度から学校図書館の体制が変わると聞いている。どのくらいの頻度と時間で、スタッフが学校に行くのか。

高村館長 小学校については引き続き委託を行うが、委託元が、これまでは教育委員会の別の部署だったのが、今後はひきふね図書館となる。委託業者に対して、図書館が指導等を行っていくことになる。時間数は変わらず、週2日で1日5時間である。

持田委員 委託元が図書館になったというのは、どこまで効果的なのか。つまり、学校図書館を利用するかどうかは、学校にかかっている。いかに学校と連携できるかが課題である。

上田会長 図書館が学校教育の現状をどれだけ把握しているかということだ。

高村館長 図書館の専門的なノウハウを、学校図書館に直接伝えられるという点では、委託元を図書館にしたことは効果的だと考えている。このようなことから昨年度、小中学校の司書との交流会をひきふね図書館で実施した。今後も指導室とも連携して、学校への支援を充実していきたい。今年度は、まずは、連携体制を整えたところである。

西村委員 1日5時間で週2日では、学校としても全然連携できない。資料3の不読率について、中2と中3は悪化している。不読率は「墨田区学習状況調査の総合意

識調査 (i-check)」という意識調査の結果から算出しているが、この調査で中学生については、「1か月に何冊くらい本を読みますか」と聞いている。一方で、文科省の学習状況調査では、「1日どれくらいの時間読書をしますか」と聞いている。i-checkの聞き方だと、読書はしているが、たまたま1か月では1冊読み切れなかったから不読になってしまう子もいる。墨田区立中学校でも、全校で朝読書をすることになっているので、1日10ページくらいは読んでいるはずだ。

佐藤委員 1週間で2日ということは、2日間しか学校図書館が開いていない、ということなのか。

西村委員 図書委員が昼休みや放課後にいるので、ほぼ毎日開館している。

持田委員 学校図書館が活性化していくためには、学校との協力が欠かせない。週に2日だけの派遣では、全然連携がとれない。学校側として、「こうだったら使えるのに」というのはあるのか。

西村委員 打ち合わせの時間をとっていない学校が多いと思う。週1回くらい打ち合わせができると良い。

齊藤委員 i-checkにおける「本」とは、電子図書ではなく紙媒体の本だと思うが、視覚障害等で本を読めない生徒もいると思う。そうした生徒に対して、学校図書館ではどのように対応しているのか。電子図書であれば音声で聞けたりするのだが。

西村委員 小学校の状況はわからないが、現在、区内中学校には、弱視の生徒はいない。ただ、ディスレクシアという、本を読むのに障害のある生徒は各校数人ほどいて、それらの生徒への配慮はまだまだ足りていない。

齊藤委員 図書館の障害者サービスのノウハウを、学校図書館へ提供できると良い。

高村館長 図書館として、必要に応じて支援していきたい。

碓氷委員 最近では外国籍の児童・生徒が増えてきたようだが、その辺りのサポートはどのようになっているのか。

高村館長 団体貸出で英語の多読図書を学校に提供しており、外国籍の児童・生徒も気軽に読書に親しめ、好評である。

上田会長 i-checkは、全生徒が対象なのか。

西村委員 特別支援学級を除いた全生徒が対象で、外国籍の生徒に対しても実施している。

持田委員 小学校でブックトークをしたときに中国籍の子がいて、その横に通訳の人がいたのだが、そういうサポートは区で行っているのか。

高村館長 区で配置し、支援している。

日向副会長 単に不読率をゼロにするのならば、調査の前月に1冊読んでおくという宿題を授業で出せばいいのだが、それで良いという話でもない。強制ではなく、読書環境を整えることが大切だ。それらの環境や条件を、今後図書館で整えていくことになると思うが、週2日、1日5時間では、図書室を開けて新刊を入れて、書架

整理をしていたら、すぐに数時間経ってしまい、打ち合わせをする時間もない。先ほど、資料費は3パーセントほど増えているという話があった。本が増えれば利用者も増えるので、学校図書館への人員配置時間も増やしていかないといけない。1日5時間でいいので、週2日から3日、4日と徐々に増やしてもらえるといい。あるいは、週2日、1日5時間とは別に、打ち合わせや作業用の時間を、プラス3時間くらい取る。そのことによって、ようやく不読率が少しずつ下がっていき、読書が根付いていくと思う。また、今後は学校の授業内容についても、ひきふね図書館で把握していかなければならない。それがないと、単なる児童サービスの延長になってしまう。

高村館長 学校図書館の課題については、日数を増やしても内容が充実していなければ、あまり効果が得られないのではないかと考えている。今回、学校図書館の運営業務の所管を図書館に変更したので、公立図書館の専門知識と経験を生かして、授業での学校図書館活用を充実させたいと思う。

持田委員 学校図書館法では、授業をバックアップするために学校図書館があることになっていて、あくまで授業で使うことがメインである。そのためには、1週間に10時間では全然足りない。

上田会長 小説を読む読書と、調べる学習での読書はやや異なる。学習のための図書館利用ではなく別の指標も考えないと、不読率の改善にはならないような気がする。

高村館長 参考にしながら取り組んでいきたい。

議事第4

その他

上田会長 その他として、何かあるか。

齊藤委員 図書館から点訳依頼があった際、以前は図書館の蔵書ではない、利用者の仕事等のプライベートな書類も無償で引き受けていた。指定管理者制度の影響なのか、ここ最近、図書館からそういった依頼がない。図書館に頼んだら断られた、という話も利用者から聞いた。プライベートな書類は、直接我々に頼まれるよりも、図書館に間に入ってもらえた方がいい。私たちの活動を知っている人は、直接頼んでくれるが、知らない人は、まずは図書館に依頼してもらおう方が望ましいのだが。

高村館長 プライベートな書類の点訳について、図書館で行うことには議論がある。

齊藤委員 「図書館サービスではない」と線引きされてしまうと、どこに聞いたらいいいのかという話になる。例えば、図書館ではできない場合に他部署を案内してくれる等の対応をしてもらえると、利用者も助かると思う。

高村館長 その点については、利用者が助かるように対応していきたい。

碓氷委員 資料費の増加がいつまでも続くとは思えないので、図書の購入方法について、例えばインターネット上のサイトを使い、定価よりも安いものを購入する体制

も必要なのではないか。

高村館長 著者を保護する意味でも、新品の本を購入するという考えにある。また、図書館では、本の装備や、書誌データも併せて購入しているため、インターネット上のサイトでの購入は難しい。

上田会長 図書館は、通例、資料を定価購入している。また、図書館で所蔵する本には、書誌データも必要である。さらに、地元書店をサポートする役割も図書館にはある。

日向副会長 一部の自治体は、新古書店で購入していたりするようだが、図書館としては、適正なルートで本を買っていくことが望ましい。絶版になった本は、古本でしか買えないが、基本的には新品で買うことによって、著者にお金が回っていく。

上田会長 本日は今期最後の協議会なので、委員の皆様から一言意見をもらいたい。私は、過去にこのような協議会委員を経験しているが、墨田区の協議会は、委員の皆様がよく発言してくれるのでありがたかった。ひきふね図書館パートナーズに代表されるように、区民の方々の図書館への理解があるからだろう。これが、今後も続いてもらえることを願っている。

日向副会長 私は、この協議会で初めて墨田区と関わることになった。墨田区は協議会のメンバーの選び方が素晴らしいと思う。このような協議会は、決まった顔ぶれになりがちだが、墨田区は図書館に意欲的な人が参加されている。今後もこのような形を続けてほしい。

佐藤委員 ひきふね図書館パートナーズを代表するような立場で参加させていただき、協議会ではいろいろ勉強させてもらって、感謝している。

齊藤委員 いろいろな意見を自由に言わせていただいた。提案した意見が、その後、どうなったのかについて、見せてもらえると嬉しい。私だけではなく、他の委員の意見も実現に向けて頑張ってもらえるといい。

持田委員 私もいろいろな意見を言わせていただいた。それらの提案が実現に向かっているのか定かでないまま任期を終えてしまうのが残念でもある。墨田区は、予算は少ないが、フットワークが軽く、頑張っていると思うところもあるので、今後も墨田区の図書館を応援したい。

西村委員 図書館部長は充て職でこの委員をやるので、来年度もお世話になることと思う。

碓氷委員 ひきふね図書館パートナーズのような良い組織を広げて、「墨田区立図書館パートナーズ」というようになれば、図書館の好感度ももっと上がると思うので、ぜひ実現してほしい。

高村館長 皆様からの意見をなるべく実現できるようにしていきたい。

上田会長 以上で、第3回図書館運営協議会を閉会する。